

世帯

77

帰還した
そこに外観はなく
誤った情報を信じて
路上では人々の戦争が続いていた。
覚えていない隣人の、
生活の中に存在している、
自分から分離した
新しい家を残して、
撤退する、あまりにも

私たちは沈黙の中で
十数年、慈悲の一つ屋根の下で
安全だと信じ続けた唯一の
地球の言葉を忘れないように
覚書としての
火傷は腕の中で苦しんで、
嘆願の最後で
人は
共感を拒否された。

78